

## 「古文書から見る大東の歴史」 8

### 「江戸時代の三箇村」村内の寺院

古くから三箇村では、神社・寺院が存在し、それぞれ神事や仏事を行い、現在まで続いています。特に、中世から浄土真宗との関わりが強かったようです。今回は「河合家文書」から村の寺院に関する古文書を紹介します。

正覚寺に伝来する「阿弥陀如来絵像」には、裏面に永正14年(1517)本願寺九代の実如から「河内国讃良郡三箇庄」の「道□」(※)へ授けられたことが記されています。近隣の出口(現・枚方市)や久宝寺(現・八尾市)・堺に比べると少し遅れます

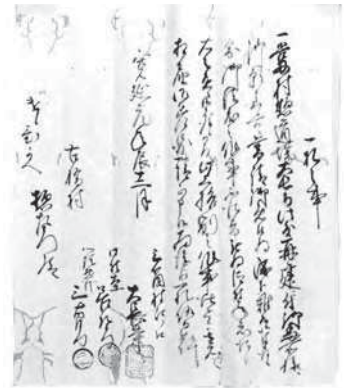


本堂本寺  
草書願書  
再建

が、戦国時代には大東市域でも門徒集団が形成されました。

江戸時代に入り、「だいたう」9月号で紹介した元文5年(1740)の「明細帳」によれば、

神社が1か所、寺院が8か寺(日蓮宗2か寺、浄土真宗6か寺)が確認できます。河合家に残されている古文書には、特に東本願寺の末寺との関係を示す史料が多く見られます。



大長寺再建一札控

宝永4年(1707)の地震により倒壊した本伝寺本堂を再建するために奉行所へ願い出た「本伝寺本堂再建願書草案」があります。この史料には、境内地の広さ・寺院の来歴・歴代の看坊(留守居)・再建前後の本堂の規模などが記載されています。また、法律で禁止されている立派な造りにしないことを約束して図面を添え、さらに工事を請け負う大工が署名・押印して奉行所へ願ひ出ています。こうした規制は、同村の大長寺でも見られます。「大長寺再建一札控」には、本堂の華美な裝飾など「御法度之作事」をしないことを番所から言い渡されました。

今回紹介した3点の史料は、歴史民俗資料館で現在開催中の「近世大東の村落―河合家文書―」から見える「三箇村」で展示しています。(大東市立歴史民俗資料館)

※ □は資料の文字が判読不能